

[学会] 第 961 回 千葉医学会例会 第 22 回 放射線医学教室例会

日 時 : 平成 9 年 12 月 13 日 (土) 午前 11 時より

場 所 : 千葉大学医学部附属病院 3 階第 2 講堂

1. Creutzfeldt-Jakob disease の 2 例

国又 肇, 服部英行 (関東中央)

今回我々は Creutzfeldt-Jakob disease (CJD) と診断された 2 例を経験したのでその MRI 所見を中心に報告する。症例は 69 才と 71 才の女性でどちらも急速に進行する痴呆を主訴とした。1 例は診断確実例, もう 1 例は診断はほぼ確実例である。2 例とも発症初期の CT および MRI の T1 強調像において明らかな異常所見を認めなかったが MRI の T2 強調像において, 側頭葉を中心とした大脳皮質の高信号が見られ 1 例では同時に両側の基底核の高信号も認めた。基底核の高信号はもう 1 例においても数カ月以内に認められるようになり, また 2 例ともに短期間に急速に進行する脳萎縮を認めた。これらの所見は臨床的に CJD が疑われる場合診断の手がかりとなりうると考えられる。

2. Pleomorphic xanthoastrocytoma の 1 例

平田 貴 (帝京大市原)

3. MRI における造影剤の動態解析法

奥畑好孝 (日大)

従来の dynamic study では造影の速度, 程度を定性的に評価していたが, MR 装置の進歩と定量的解析法の確立によって, 対象とする組織内の血管体積 (fractional blood volume, fBV) 及び血管壁の透過性 (fractional leak rate, FLR) を定量的に測定できる可能性が論じられている。造影剤による信号強度の変化と造影前 T1 値より組織の造影剤濃度が算出される。そこで組織と血液の造影剤濃度の Dynamic curve を 2-compartment model にあてはめて fBV, FLR を算出した。これらの数値は個体差 (造影剤分布容積, 循環時間等) や造影剤の注入法などによらない, 腫瘍や組織固有の情報であり, 客観的評価が可能となる。その具体的な方法と意義について論じる。

4. CT simulation における呼吸性移動の検討

上村昭博 (千大)

5. 頭頸部悪性腫瘍の術前照射 (60Gy) の検討

町田南海男 (千大)

6. 放射線障害に対する薬用人参の効果について — 照射マウス腸内での接種コリネ菌の増殖を指標として —

斉藤正好 (千大・医・放技校)

白崎智子 (千大・放部)

磯辺智範 (筑波大)

放射線障害が腸内で発育する細菌の増殖に影響をおよぼす可能性と薬用人参の放射線障害に対する効果について検討を加えた。

エックス線の全身照射 (3~6 Gy) を実施したマウスに定着部位が明らかなネズミコリネ菌 (*Corynebacterium Kutcheri*) を経口感染させた結果, 盲腸内のコリネ菌増殖および口腔, 気管内の菌検出率は照射線量に依存して増加することが明かとなった。そこで, 全身照射マウス (4.5Gy) にコリネ菌を経口感染させ, 薬用人参エキス (40mg/mouse/day) を隔日に 5 回経口投与したところ, 有意な盲腸内コリネ菌増殖抑制, 菌検出率の低下 (口腔, 気管) および延命効果が認められた。

7. 悪性リンパ腫における ^{99m}Tc -MIBI の使用経験

太田正志 (千大)

病理学的に悪性リンパ腫と診断された患者 15 例 (NHL 14 例, HD 1 例, 再発 9 例 : 初発 6 例) に ^{99m}Tc -MIBI シンチを施行した。 ^{99m}Tc -MIBI 600~740MBq 静注 20 分後に早期像, 2 時間後に後期像を撮像し, 腹部と骨髄を除く病変に対して視覚的に集積の有無を判定した。病変の描出率は早期像で 58.3%, 後期像で 50.0% であり,